

用排水路、ため池等への転落事故における死亡者数

用排水路、ため池等への転落事故における死亡者数は、毎年**100人以上**となっています。
このうち子供（20歳未満）の死亡者数は、毎年5人程度となっています。

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
死亡者数	103	124	121	122	140	146	146	131
うち10歳未満	3	2	2	3	1	0	2	3
うち10歳以上20歳未満	3	2	3	3	3	0	3	2



用排水路の危険性

ゲリラ豪雨などが発生すると、一気に水路の水位が増水し危険なため、用排水路などへ近づいたり、遊ばないように注意してください。



転落事故防止の啓発ポスター (全国土地改良事業団体連合会 作成)

別添

全国水土里ネット（全国土地改良事業団体連合会）では、ため池や用排水路などへの転落防止を呼びかけるポスターを作成し、無償でデータ提供していますので、御活用ください。



【農業用水利施設の安全対策啓発ポスター】



農業の用排水路及びため池への転落事故防止のための啓発ツール

■ 農業用排水路転落防止マンガ①

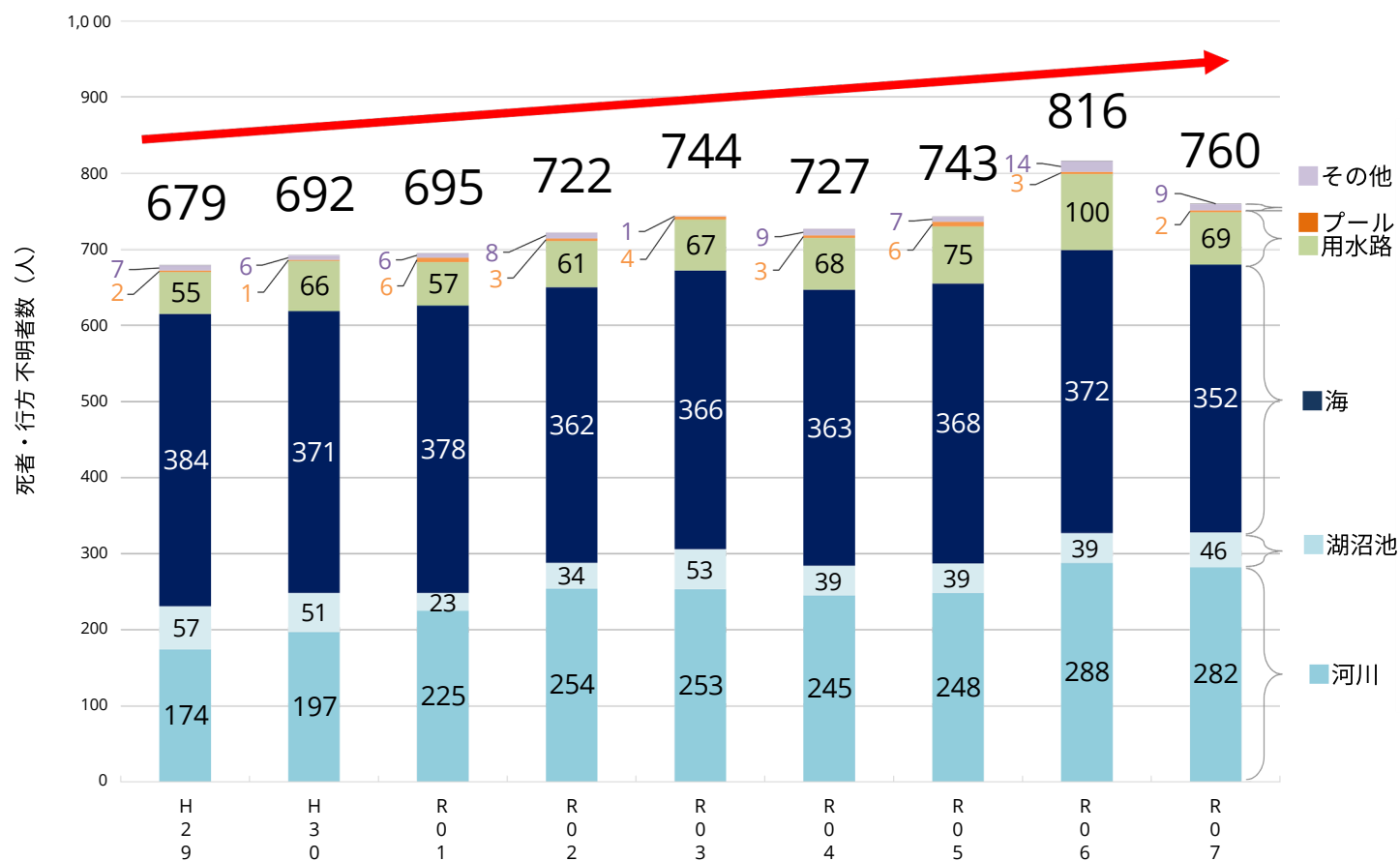


■ 農業用排水路転落防止マンガ②

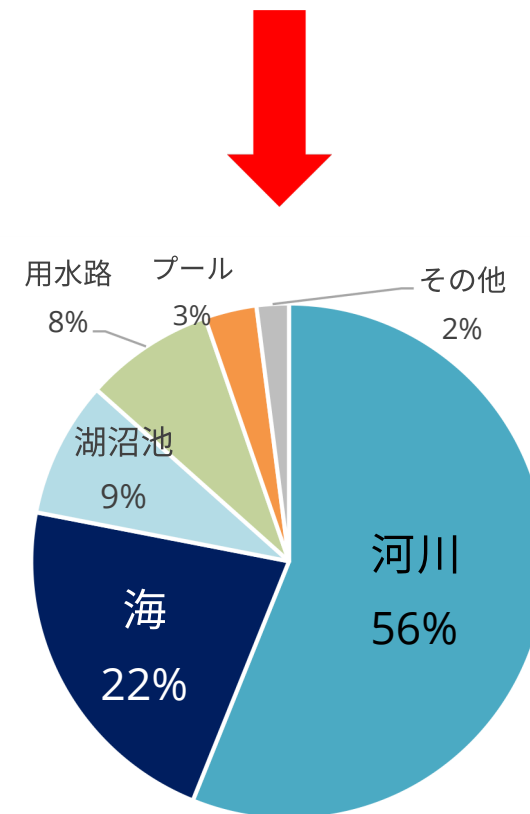


(全体)
水難事故による死者・行方不明者数は
近年増加傾向
毎年600-900名程の人が犠牲となっており、
河川はその3-4割を占める等増加傾向

(中学生以下)
子どもは「河川」での
水難事故が最多



場所別の死者・行方不明者数（総数）の推移
警察庁資料「水難の概況」より河川財団作成



中学生以下の子ども
場所別死者・行方不明者数
(H29-R7)

警察庁資料「水難の概況」より作成

こどもの河川水難事故防止に向けたポイント

こどもに知って欲しい3つのポイント（+引率者）

動画等でも紹介

河川水難事故防止に重要な、上位事項を整理



1

2

3

4

5



誰かと一緒に行く

川には思わぬ危険が隠れています。
必ず複数人で行動しましょう。



上流の天気も確認

今いる場所が晴れていても、
上流の雨で
水かさが増えることがあります。



大人もこどもも
ライフジャケット着用

ライフジャケットは
「川のシートベルト」です。



こどもから目を離さない

こどものすぐそばで
見守りましょう。



大人は下流でスタンバイ

こどもより上流側にいると、
流されたときに
救助が間に合いません。

知識・技能

情報・場所

装備

知識・技能

知識・技能

大人・こども共通

引率の大人（教員・保護者等）

ライフジャケット着用推進の取組やデータ整理・情報提供等を実施

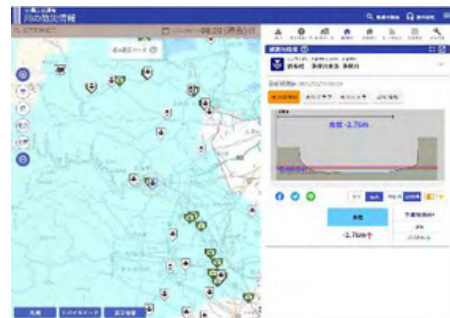
川での活動に適した
ライフジャケットの例

装備

情報・場所



「川のシートベルト ライフジャケット」
河川水難事故防止の取組み
(河川におけるライフジャケットの着用を促進)



川の防災情報を通じた情報提供
地域の雨量情報、川の水位情報
等をリアルタイムで配信



現地看板による情報提供
注意喚起を促す内容の看板等による情報提供



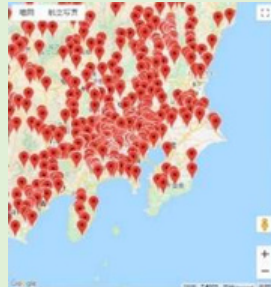
河川水難事故防止ポータルサイト
関係施策や水辺の安全に関する
コンテンツ等を一元化して紹介



水難事故防止に向けた データ整理・情報発信等



水難事故に関する調査研究
河川等での水難事故の統計に
関する研究・資料作成等



全国の水難事故マップ
水難事故の発生箇所や状
況をWEB上に表示



これらのコンテンツ等を上記サイトに集約

ウォーターセーフティガイドとは



<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/watersafety/>

以下の8つのマリレジャーについて事故防止のための情報を取りまとめた総合安全情報Webサイトです。

- | | |
|----------|----------------|
| ○モーターボート | ○カヌー |
| ○水上オートバイ | ○スタンドアップパドルボード |
| ○遊泳 | ○ミニボート |
| ○スノーケリング | ○釣り |

16歳未満の事故者が多い「遊泳」について掲載内容の一部を紹介します。

詳しくは右の二次元コードからウォーターセーフティガイドをご覧ください。



【二次元コード】

海で遊ぶときの注意

海はプールと違って、泳ぎが得意な方でも波や潮の流れにより溺れてしまうことがあります。

海水浴は、遊泳区域が旗やロープで示されており、ライフセーバーや監視員が居る開設された海水浴場で泳ぎましょう。

天気予報や自身の体調を確認するとともに、ライフジャケットや防水パック入り携帯電話などを持っていきましょう。

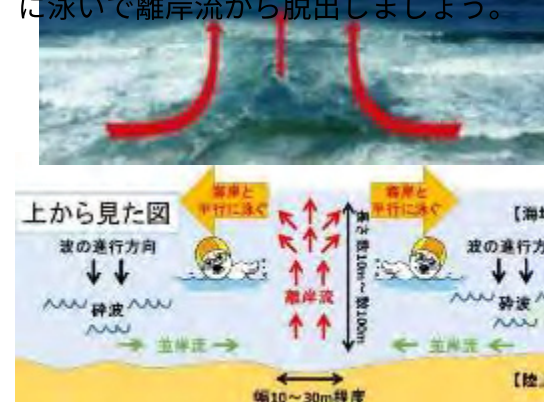


離岸流について

沖に向かって発生する強い流れに注意しましょう。離岸流はとても強い流れのため、一旦この流れに巻き込まれてしまうと、気がつかないうちに沖まで流されてしまい大変危険です。

沖に流された場合は、落ち着いて海岸と平行

に泳いで離岸流から脱出しましょう。



子どもから離れない

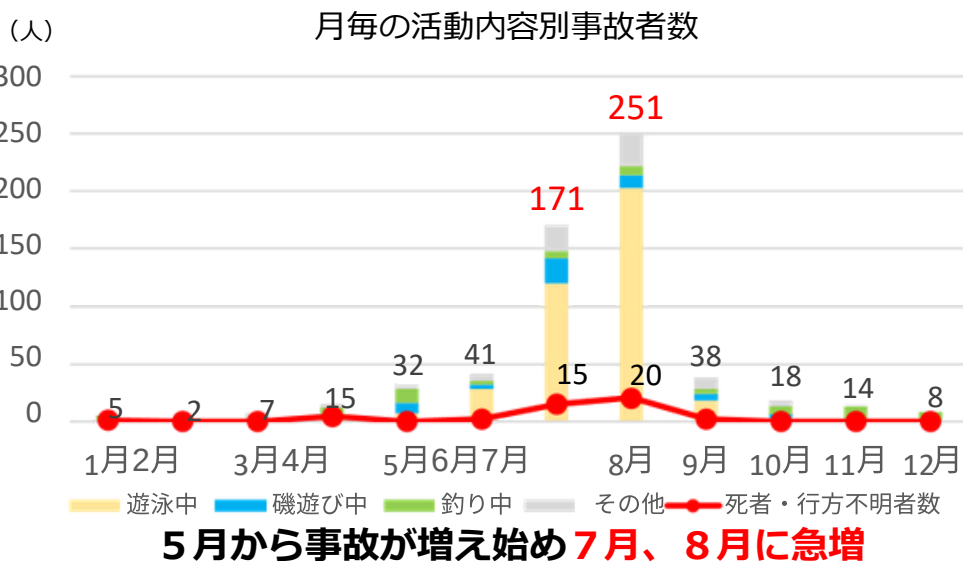
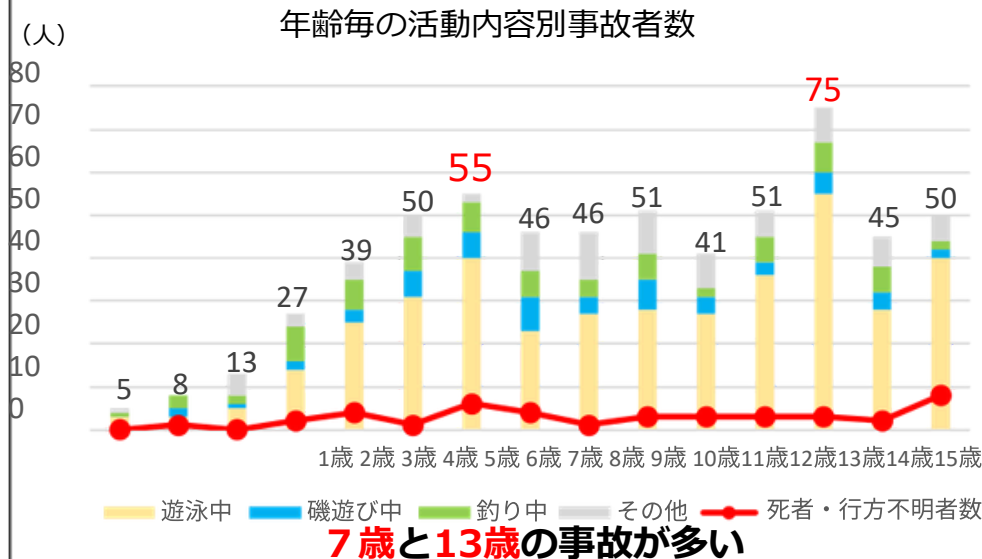
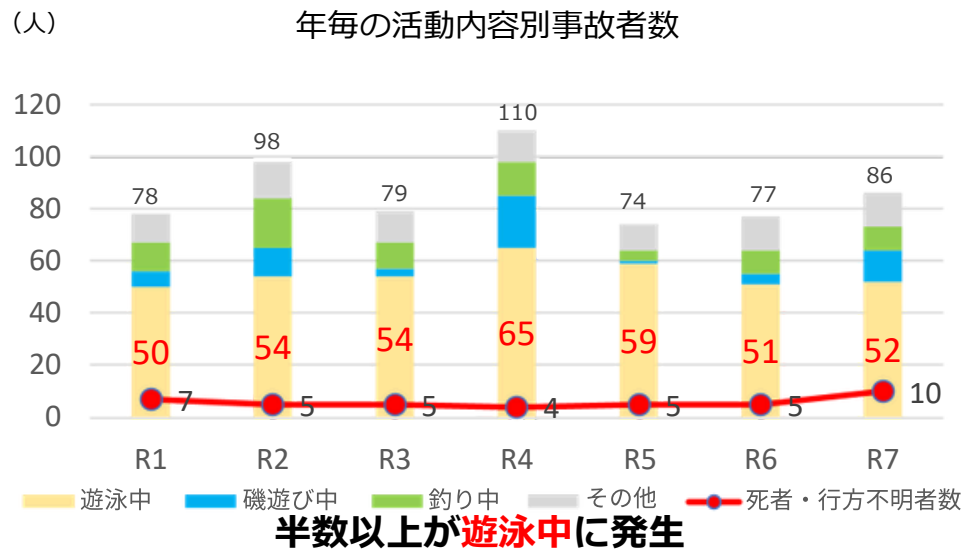
子どもは大人に比べ危険に対する判断ができません。思いがけず小さな波でも足をすくわれ、溺れることがありますので、保護者の方は、常に子どもから離れないようにしましょう。また、万が一に備えライフジャケットを着用させましょう。

水辺に子どものみでいるのを見かけたら、大人が注意するようにしましょう。

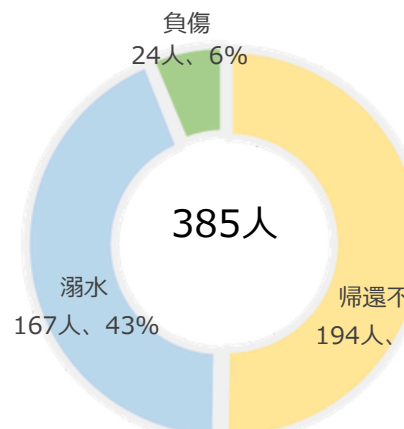
波打ち際でも、子どもが波にさらわれ沖に流される事故が発生しています。海に入っていないなくても油断は禁物です。



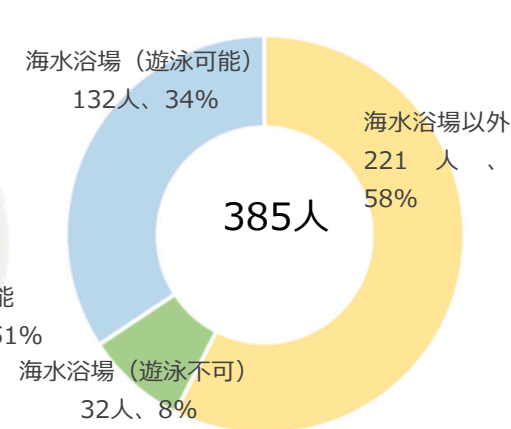
1 6歳未満の事故者状況（令和元年～令和7年）



遊泳中の事故内容別の割合



遊泳中の事故発生場所別の割合



溺水と帰還不能※が多く、大半が海水浴場以外で発生

※沖に流されるなど、保護が可能な陸岸に戻れない状態

海上保安庁の取組について



安全教室における海難事故防止に係る講習



安全教室における海難事故防止に係る講習

事故事例の紹介

遊泳中に沖に流された事故

中学生が沖に向け遊泳していたところ、潮に流され戻れなくなりましたが、運よく付近の岩場に漂着し、通りかかったゴムボートに救助されました。



浮き具で遊んでいたら 沖に流された事故

小学生の姉弟が波打ち際で大型浮き具に乗っていたところ、風の影響で沖に流されました。父親が助けようとするも追いつかず、その後、ボートにより救助されました。



保護者が目を離したときに 溺れた事故

家族でスノーケリングをしていたところ、親が目を離した際に、小学生の子どもが海面を叩きながら溺れていました。父の救助が間に合い、病院に搬送されましたが、1週間の療養となりました。

